

## 2022(令和4)年度 佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

### 第一部門 法然文献班 元亨版『和語燈録』本文・現代語訳対照本作成

班長 市川 定敬

#### 研究組織および専門分野

本庄 良文	嘱託研究員（浄土学・仏教学）
伊藤 真宏	研究員（浄土学・日本仏教文化史）
市川 定敬	研究員（法然浄土仏教思想研究）
齋藤 蒙光	研究員（法然浄土教）
下端 啓介	学術研究員（法然及び源信の思想）
大久保慶子	嘱託研究員（中世仏教説話）

#### 2022（令和4）年度の研究

本紀要創刊号所載の活動報告において示したように、当班は、元亨版『和語燈録』の本文・現代語訳註本を完成させる目的で研究活動を行っている。また、当班は、故岸一英教授の追悼出版の後方支援をするためのものであり、その基となるものが、佛教大学四条センターで行われた『和語燈録』の連続講義の担当者（岸一英氏、藤堂俊英氏、眞柄和人氏、本庄良文氏、安達俊英氏、善裕昭氏、伊藤真宏氏、角野玄樹氏）が作成した現代語訳や資料である。

令和2年2月をもって上記連続講座の現代語訳資料の見直しが一通り終了し、引き続き全体的な訳語等の統一のための見直し作業に入っている。しかしながら令和3年7月に研究体制の再構築をせざるを得ない状況が生じ、以降の研究活動は一旦休止。諸般の事情により再開できていない状態である。

#### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

# 第一部門 『逆修説法』 班

## 『逆修説法』 諸本対照本作成、古本『漢語燈録』を中心とする本文批判

班長 眞 柄 和 人

### 研究組織および専門分野

眞柄 和人	知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（法然仏教伝承過程）
齋藤 蒙光	佛教大学仏教学仏教学科部准教授（浄土学、法然浄土教思想研究）
吉原 寛樹	佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻修士課程修了（『逆修説法』研究）
岩谷 隆法	佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（法然文献）
一ノ瀬和夫	佛教大学大学院文学研究科仏教学専攻博士後期課程在学中

### 2022（令和4）年度の研究

善照寺本『古本漢語燈録』巻七、巻八を基礎資料として、他の諸本の本文を参照、比較対照しながら、『逆修説法』の訓読、現代語訳、注記を完成させる作業を行っている。

今年度の出版に向けて、原稿の最終的な確認修正作業を行っている。

### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

#### 第98回研究会報告

日 時：3月11日（金）13：00～14：00  
場 所：Google Meet でのリモート研究会  
参加者：眞柄、齋藤、吉原、一ノ瀬、岩谷  
内 容：現状確認と今後の打ち合わせ

#### 出版の打ち合わせ

日 時：4月28日（木）13：00～14：00  
場 所：佛大15号館2階 研究室  
参加者：眞柄、岩谷、田井、出版社2名  
内 容：出版の流れなどの確認

#### 第99回研究会

日 時：5月19日（木）15：00～16：00  
場 所：佛大15号館2階 研究室

参加者：眞柄、齋藤、吉原、一ノ瀬、岩谷

内 容：本文、詳細目次、引用経典表、解題の進捗報告と今後の流れの確認

#### 第100回研究会

日 時：6月9日（木）13：00～14：30

場 所：佛大15号館2階 研究室

参加者：眞柄、吉原、岩谷

内 容：原稿の見直し

#### 第101回研究会

日 時：9月7日（水）13：00～14：00

場 所：Google Meet でのリモート研究会

参加者：眞柄、齋藤、吉原、一ノ瀬、岩谷

内 容：原稿の提出について、各自作業の進捗報告

#### 第102回研究会

日 時：10月17日（月）13：00～14：00

場 所：Google Meet でのリモート研究会

参加者：眞柄、齋藤、吉原、岩谷

内 容：分担作業（本文、詳細目次、引用経論表、解題）の進捗報告

#### 第103回研究会

日 時：12月15日（木）14：00～17：40

場 所：Google Meet でのリモート研究会

参加者：眞柄、岩谷

内 容：第三校修正案の検討（初七日から五七日）

#### 第104回研究会

日 時：12月21日（水）13：00～14：15

場 所：Google Meet でのリモート研究会

参加者：眞柄、岩谷

内 容：第三校修正案の検討（六七日）

# 第一部門 『選択集』 諸本研究班 信重院 『選択集』 諸本等の調査および研究

班長 兼 岩 和 広

## 研究組織および専門分野

兼岩 和広	浄土宗轉法輪寺住職（法然浄土教・『選擇集』）
伊藤 眞宏	仏教学部（浄土学・法然浄土教）
服部 純啓	佛教大学大学院博士後期課程（珍海の浄土教思、法然と周縁思想家の研究）
小川 法道	佛教大学大学院博士後期課程（浄土教思想）
明石 寛成	佛教大学大学院博士後期課程（浄土学・江戸期浄土教）
下端 啓介	佛教大学大学院博士後期課程（浄土学・『往生要集』）
高城 聡宏	佛教大学大学院博士後期課程（浄土学・西山教学・「當麻曼荼羅」）

## 2022（令和4）年度の研究

コロナ禍の影響もあり、他大学での本格的な調査活動が出来ないため、今年度の調査活動はストップしたままである。

諸本の比較対象作業については、ほぼ毎週、zoom オンラインも活用しながら各自で作業を進めている。

## 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

### ◎諸本比較対象作業

日 時：毎週火曜日 10時から

場 所：Zoom オンライン

#### 【活動内容】

- ・各自、画像データを切り貼りして、比較対象資料を作成している。

## 第二部門 『摧邪輪』 班 明恵 『摧邪輪』 寛永版訓読・現代語訳

班長 米澤 実江子

### 研究組織および専門分野

中御門敬教 東海学園大学人文学部教授（インド・チベット浄土教／顕密の浄土教）  
服部 純啓 知恩院浄土宗学研究所研究助手、佛教大学非常勤講師  
（珍海浄土教／法然浄土教と周縁思想家）  
米澤実江子 佛教大学大学院文学研究科博士後期課程修了（日本仏教〔中世〕）

### 2022（令和4）年度の研究

『摧邪輪』には数本の写刊本が存在し、既に寛永年間版本を底本とした、書き下し（全）・校補注（全）・現代語（巻上）が公にされている。

当班では、平成25年より寛永年間版本巻中からの書き下し・註・訳の確認作業を始め、平成26年9月以降、研究会を開催せず米澤が作業を継続し、平成30年1月から、本庄良文先生のご指示により、「巻中」、訓・註・現代語訳の再検討を行ない、同時に今年度より、「巻下」の作業を開始した。

### 研究会の開催・進捗（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

2021（令和3）年度：「巻中」訓・註、『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』への掲載終了。

1月～3月：「巻下」の準備・調整。

2022（令和4）年度

4月：「巻中」訓・註・現代語訳の再検討。「巻下」訓・註・現代語訳。

5月：「巻中」訓・註・現代語訳の再検討。「巻下」訓・註・現代語訳。

6月：「巻中」訓・註・現代語訳の再検討。「巻下」訓・註・現代語訳。

『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第9号掲載原稿作成。

7月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第9号掲載原稿作成。

9月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第9号掲載原稿作成。

10月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第9号掲載原稿作成。

11月：「巻中」現代語訳の再検討。「巻下」引用確認。

12月：『佛教大学 法然仏教学研究センター紀要』第9号掲載原稿校正。

## 第二部門 『徹選択集』 研究班 『徹選択本願念仏集』 の注釈類の翻刻・現代語訳

班長 上野 忠 昭

### 研究組織及び専門分野

上野 忠昭 浄土宗浄願寺副住職（中国仏教・法然浄土教）

### 2022（令和4）年度の研究

インターネットの作業ページ上を作成し、聖光『徹選擇本願念佛集』、良忠『徹選擇鈔』、聖聰『徹選擇本末口傳抄』の本文をページ上にアップし、訓読、現代語訳および注の作成作業を進めた。

本年度の成果として、『徹選擇本願念佛集』巻上の前半部分の訓読・現代語訳・注を『法然仏教学研究センター紀要』9号で報告した。『紀要』では、『徹選擇鈔』は、『徹選擇集』対応箇所注に訓読を示すのみに留め、『徹選擇本末口傳抄』とともに、別にまとめる作業を進めている。

### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

班別研究会は開催していない

## 第二部門 『往生要集鈔』 関係班 『往生要集鈔』 『往生要集義記』 諸本対照・訓読・現代語訳

班長 南 宏 信

### 研究組織および専門分野

本庄 良文 嘱託研究員（浄土学・仏教学）  
南 宏信 研究員（浄土学・仏教文献学）

### 2022（令和4）年度の研究

南宏信：『鈔』『義記』諸本の文献学的研究

- ① 諸本対照表作成中（画像コピーによる対照全巻完成）  
適宜データ化を進めていく。
- ② 引用文献典拠調査：協力者による調査結果の糾合中である。
- ③ 引用文献の系統調査（日本古写経、宋版等々のうちいずれの系統に近いかな等）。

本庄良文：元治版『義記』の本文・訓読・訳註

- ① 第一巻（冒頭から地獄まで）訓読・訳註公表済（『浄土宗學研究』等）。
- ② 第二巻（餓鬼以降の厭離穢土）訓読稿完成。下訳半分完成。
- ③ 第三巻、欣求浄土の訳素稿完成。極楽証拠の下訳若干。
- ④ 第六巻、臨終行儀のみ、訓読稿・下訳完成（院授業成果）。
- ⑤ 第八冊、訓読素稿完成。

今後、第二巻以降の訳註を進める予定である。

### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

## 第二部門 中国関係班 『往生西方浄土瑞応刪伝』 訳註

班長 齊藤隆信

### 研究組織および専門分野

齊藤 隆信	研究員（浄土教思想、中国仏教）
曾和 義宏	研究員（浄土学、中国浄土教理史）
加藤 弘孝	研究員（中国仏教、浄土教思想）
永田 真隆	嘱託研究員（往生伝研究）
小川 法道	嘱託研究員（浄土教思想）

### 2022（令和4）年度の研究

唐代の中頃、文諡と少康によって編纂された『往生西方浄土瑞応刪伝』1巻の訳註を作成している。本書はこれに先行する僧伝類や往生伝類の中から僧俗男女48人を抽出し、その阿弥陀仏信仰にともなう往生浄土の事跡を削除修訂し、靈相奇瑞の記述を中心に紹介しており、現存する単独の浄土往生伝としては最古の資料である。

編者の少康は法然が『選択集』において中国浄土教の師資相承血脈として立てた五祖の一人であり、また法然の『類聚浄土五祖伝』では、曇鸞・道綽・善導・懷感とともに少康の伝記が立伝されている。

本書は法然が中国浄土五祖を選定するにあたって拠り所とした重要資料の一つでありながら、これまでその訳註の成果が公表されることはなかった。それだけに法然仏教学研究センターにおいて本書の訳註を作成し公開する意義は大きい。

訳註作成にあたっては、京都国立博物館所蔵写本（守屋孝蔵旧蔵本）を底本に定め、六種の版本（整版本・活字本）を校本として、校訂、校記、書き下し、和訳、訳註の作成を進めている。

### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

#### 第1回研究会

日 時：5月16日（月）13：00～14：30

内 容：打ち合わせ（訳註作業の方針）

#### 第2回研究会

日 時：6月6日（月）13：00～14：30



内 容：序文の訳註

第3回研究会

日 時：6月27日（月）13：00～14：30

内 容：1 慧遠の訳註

第4回研究会

日 時：7月11日（月）13：00～14：30

内 容：2 曇鸞の訳註

第5回研究会

日 時：9月5日（月）13：00～14：30

内 容：3 道珍の訳註

第6回研究会

日 時：9月27日（火）13：00～14：30

内 容：4 崖禅師の訳註

第7回研究会

日 時：10月11日（火）13：00～14：30

内 容：5 慧命・6 静藹の訳註

第8回研究会

日 時：10月25日（火）13：00～14：30

内 容：7 智顛の訳註

第9回研究会

日 時：11月15日（火）13：00～14：30

内 容：8 道喩の訳註

第10回研究会

日 時：12月6日（火）13：00～14：30

内 容：9 登法師・10 洪法師の訳註

## 第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班 黒谷金戒光明寺所蔵『日鑑』の調査・翻刻・研究

班長 坪井 剛

### 研究組織および専門分野

坪井 剛 佛教大学仏教学部准教授（日本中世仏教史）

横田 友教 佛教大学大学院文学研究科博士後期課程（近世仏教史・浄土宗史）

### 2022（令和4）年度の研究

黒谷金戒光明寺が所蔵する公用日記である『日鑑』は、江戸中期の安永5年（1776）以降のものが現存している。このうち、幕末期のものについては一部調査されているようだが、そのほとんどが未翻刻の状態である。また、量が膨大であるため、平成23年（2011）に作成された『大本山くろ谷金戒光明寺 宝物総覧』でも全ての写真は掲載されていない。そこで本年度より、これらを調査・撮影し、その記述を順次、翻刻・読解していく研究班を立ち上げた。当面は史料調査・翻刻及び読解が研究の中心となるが、将来的には、江戸期における金戒光明寺史・浄土宗史の研究まで発展させることを目標としている。

※ 本研究班には、黒宮海大（佛教大学仏教学部学部生）が参加しており、翻刻のチェック・関連史料のデータ化などを担当している。

### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年4月～12月）

・研究会：場所は全て Zoom、参加者は坪井・横田・黒宮

#### 第1回研究会

日 時：4月13日（水）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』1丁表～5丁裏の翻刻を検討。

#### 第2回研究会

日 時：4月27日（水）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』6丁表～10丁裏の翻刻を検討。

#### 第3回研究会

日 時：5月19日（木）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』11丁表～15丁裏の翻刻を検討。

#### 第4回研究会

日 時：6月1日（水）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』16丁表～20丁裏の翻刻を検討。

第5回研究会

日 時：6月16日（木）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』21丁表～25丁裏の翻刻を検討。

第6回研究会

日 時：6月29日（水）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』26丁表～30丁裏の翻刻を検討。

第7回研究会

日 時：7月13日（水）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』31丁表～35丁裏の翻刻を検討。

第8回研究会

日 時：7月27日（水）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』36丁表～40丁裏の翻刻を検討。

第9回研究会

日 時：8月29日（月）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』41丁表～46丁裏の翻刻を検討。

第10回研究会

日 時：9月15日（木）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』47丁表～52丁裏の翻刻を検討。

第11回研究会

日 時：9月29日（木）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』53丁表～58丁裏の翻刻を検討。

第12回研究会

日 時：10月13日（木）18：00～20：30

内 容：『日鑑（安永5年・6年5月迄）』59丁表～64丁裏の翻刻を検討。

・史料調査

第1回史料調査

日 時：11月21日（月）～25日（金）

場 所：黒谷金戒光明寺

参加者：坪井・横田・黒宮

内 容：原本調査、清水光芸社による史料撮影とそのチェック。

## 第三部門 伝宗伝戒班

### 『真葛伝語』 諸本蒐集および教理的根拠の探索

班長 眞柄 和 人

#### 研究組織および専門分野

- 眞柄 和人 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（浄土仏教学）
- 高津 晴生 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学  
（浄土宗における戒）
- 武田 真享 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学  
（日本浄土教）

#### これまでの研究成果

- ・2020（令和2）年3月1日に『真葛伝語』を発行。

#### 2022（令和4）年度の研究

- ・研究員の個別の関心に応じて、七祖聖問の思想や菩薩戒の研究も進めている。

#### 研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）

- ・現在、研究会は中止し、班員共通の新たな研究題目を模索中。
- ・2022（令和4）年12月12日（月） 今後の研究課題検討会。  
出席者：眞柄、武田、高津。

#### 眞柄

佛大図書館蔵の浄土宗傳法傳書の整理。

#### 高津

全長『顕浄土伝戒論私記』の本文入力と現代語訳の作成を課題として進行中。

#### 武田

聖聡著作、特に『小経直談要註記』の研究を課題として進行中。

#### 今後の展望

- ・眞柄が取り掛かっている佛教大学図書館蔵浄土宗傳法書解題を中心とした研究を進める。

第三部門 伝宗伝戒班  
聖問撰『決疑鈔直牒』身延文庫本の研究

班長 南 宏 信

**研究組織および専門分野**

南 宏信 研究員（浄土学・仏教文献学）

**2022（令和4）年度の研究**

・身延文庫本の翻刻

諸般の事情で遅延しているが、前年度に引き続き翻刻作業を継続中である。

**研究会の開催等（対象期間：2022（令和4）年1月～12月）**

班別研究会は開催していない。

## 法然仏教学研究センター組織

センター長	曾和 義宏				
研究推進機構会議委員	作田誠一郎*	細田 典明	有田 和臣	李 昇燁	
	藤岡 勲	安藤 潤	伊部 恭子	利木佐起子	
	中嶋 力都	内田 仁			
	大西 伸江**				
運営会議構成員	曾和 義宏*	伊藤 真宏	市川 定敬	坪井 剛	
	齋藤 蒙光	南 宏信	加藤 弘孝	田井 陽子	
	内田 仁**				
職員	田井 陽子	田村 昌弘			

(\*は委員長、\*\*はオブザーバー)

## 研究組織

### ■「法然仏教の多角的研究」

研究員	曾和 義宏	嘱託研究員	吉原 寛樹
研究員	齊藤 隆信	嘱託研究員	高津 晴生
研究員	伊藤 真宏	嘱託研究員	岩谷 隆法
研究員	市川 定敬	嘱託研究員	武田 真享
研究員	坪井 剛	嘱託研究員	兼岩 和広
研究員	齋藤 蒙光	嘱託研究員	小川 法道
研究員	南 宏信	嘱託研究員	服部 純啓
研究員	加藤 弘孝	嘱託研究員	大久保慶子
嘱託研究員	本庄 良文	学術研究員	明石 寛成
嘱託研究員	眞柄 和人	学術研究員	一ノ瀬和夫
嘱託研究員	上野 忠昭	学術研究員	下端 啓介
嘱託研究員	中御門敬教	学術研究員	高城 聡宏
嘱託研究員	米澤実江子	学術研究員	横田 友教
嘱託研究員	永田 真隆		

## 活動記録 2022（令和4年）年1月～12月

2022（令和4）年

- 1月18日（火） 第9回法然仏教学研究センター運営会議  
26日（水） 第11回研究推進機構会議（Zoom 使用）
- 2月9日（水） 第12回研究推進機構会議（中止）
- 3月9日（水） 第13回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
11日（金） 研究会（第一部門 『逆修説法』班）
- 4月11日（月） 第1回法然仏教学研究センター研究会（法然仏教の多角的研究）  
12日（火） 第1回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
13日（水） 第1回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
27日（水） 第2回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
28日（木） 研究会（第一部門 『逆修説法』班）
- 5月16日（月） 研究会（第二部門 中国関係班）  
17日（火） 第2回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
18日（水） 第3回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
19日（木） 研究会（第一部門 『逆修説法』班）  
研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
30日（月） 第2回法然仏教学研究センター研究会（法然仏教の多角的研究）
- 6月1日（水） 第4回研究推進機構会議（中止）  
研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
6日（月） 研究会（第二部門 中国関係班）  
9日（木） 研究会（第一部門 『逆修説法』班）  
16日（木） 研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
22日（水） 第5回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
27日（月） 研究会（第二部門 中国関係班）  
29日（水） 研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）
- 7月11日（月） 研究会（第二部門 中国関係班）  
12日（火） 第3回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
13日（水） 第6回研究推進機構会議（Zoom 使用）



- 研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
27日（水）研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
8月29日（月）研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
9月5日（月）研究会（第二部門 中国関係班）  
7日（水）研究会（第一部門 『逆修説法』班）  
14日（水）第7回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
15日（木）研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
27日（火）第4回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
研究会（第二部門 中国関係班）  
28日（水）第8回研究推進機構会議（中止）  
29日（木）研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
10月3日（月）第3回法然仏教学研究センター研究会（法然仏教の多角的研究）  
11日（火）研究会（第二部門 中国関係班）  
13日（木）研究会（第二部門 黒谷金戒光明寺『日鑑』研究班）  
17日（月）研究会（第一部門 『逆就説法』班）  
18日（火）第5回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
19日（水）第9回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
25日（火）研究会（第二部門 中国関係班）  
11月8日（火）第6回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
9日（水）第10回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
15日（火）研究会（第二部門 中国関係班）  
25日（金）第4回法然仏教学研究センター研究会（法然仏教の多角的研究）  
12月6日（火）研究会（第二部門 中国関係班）  
7日（水）第11回研究推進機構会議（Zoom 使用）  
13日（火）第7回法然仏教学研究センター運営会議（Zoom 使用）  
15日（木）研究会（第一部門 『逆修説法』班）  
21日（水）研究会（第一部門 『逆修説法』班）

## 編集後記

『佛教大学法然仏教学研究センター紀要』第9号をお届けします。

佛教大学法然仏教学研究センターの目的はその規程の中で、「佛教大学の建学の精神に則り、浄土学を中心に仏教学、人文科学、社会科学、自然科学にわたる広い視点から法然仏教の総合的な学術研究を行い、文化の発展に寄与することを目的とする」とうたわれています。本紀要は、その目的を達成するための年度成果として発行しています。

しかしながら、このコロナ禍においては研究活動が困難を極め、特に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度に引き続き講演会をオンライン開催とせざるを得なかった点、かつ、各研究班も一堂に会しての研究会や調査活動が困難なことからオンライン開催や各自における作業を行う等の工夫をこらしての活動となった点等、今年度においても望まれる活動ができなかった点が悔やまれました。

そのような中でも、大谷大学名誉教授の小谷信千代（おだにのぶちよ）先生をお招きして、今年も講演会を開催することができました。特に小谷先生には慣れないであろうオンラインでの開催にご協力を賜り、深く感謝申し上げます。小谷先生の熱弁は、本誌に掲載するとともに、佛教大学公式 YouTube チャンネルに動画をアップしていますので、どうぞご覧ください。

また、各研究班の活動成果については、同じくコロナ禍で作業が困難な中、新規成果報告1編を加え、3編の報告を掲載することができました。多くの苦労がある中での各研究班の絶え間ない努力と成果に頭が垂れる思いです。

来年度の発行で本紀要は第10号、すなわち10周年を迎えます。2023（令和5）年度はコロナ禍が落ち着き、さらなる活発な研究活動が行えることを祈念してやみません。

最後に、本紀要作成にあたりご協力いただいたすべての方へ感謝申し上げます。

（市川定敬）